



3/19 モノレール車両基地見学ツアー

沖縄都市モノレールの開業20周年を迎えるにあたり、市内在住の小学生と保護者を対象に、モノレール乗車体験とモノレール車両基地見学ツアーが開催されました。

乗車体験では、ただこ浦西駅から終点の那覇空港まで、交通環境学習やクイズ、建物や土地のガイドを楽しみながら、車窓から見える景色を堪能しました。車両基地では、普段見られないレールが切り替わる様子や、モノレール車内から洗車機を通る様子を見学しました。参加した児童は「普段乗っているモノレールのいろいろなことを学べて、とても楽しかった。目の前で洗車も見れて良かった」と嬉しそうに話しました。



3/19 「第74回沖展」4年ぶり本格開催

県内最大の美術・工芸展、「沖展」が3月18日からANA ARENA浦添で開幕し、作品解説会やワークショップも実施され、4年ぶりの本格開催となりました。沖展は市民のみならず、県民の春の風物詩となっており、絵画や版画、彫刻など12部門の展示を行っています。

19日には表彰式が行われ、絵画部門でe-no新人賞を受賞した、市出身の前川麗香さんは「絵を描く中で、苦しいと思うときもあったが、向き合い続けた結果、このような素晴らしい賞を受賞することができて、とても嬉しい」と話しました。松本市長は「今日のこの日を通過点として、更に素晴らしい作品を作り続けてほしい」と受賞者たちの今後の活躍に期待しエールを送りました。



3/5 にぎわうチャリティーフリーマーケット

市内の商店街組合である、浦添市役所通り会が主催する「大感謝祭チャリティーフリーマーケット」が3年ぶりに市役所市民広場で開催されました。

このイベントは、通り会の活性化と募金活動のために企画され、お楽しみ抽選会や野菜販売、雑貨などのフリーマーケットでにぎわいました。特設ステージでは、パトロンや太鼓演舞が披露され、スペシャルゲストにお笑いタレントの護得久栄昇先生と仲座先輩が登場すると会場は歓声と笑い声に包まれました。

訪れた親子は「娘は、貯めたお小遣いでお気に入りのキャラクターのぬいぐるみを買っていました」と嬉しそうに話しました。



3/10 JICA沖縄との連携覚書署名式

浦添市の国際交流の拠点であるJICA沖縄と、多分野に渡る一層の連携強化を図ることを目的に「浦添市とJICA沖縄との連携覚書」を締結しました。

覚書には、開発途上地域からの技術研修員の受け入れや市内企業の海外展開およびグローバルな産業人材育成の促進、市民の国際協力への理解促進などが明記されており、署名式では国際協力を通じた市の振興を目指すことを確認しました。JICA沖縄の倉科和子所長は「市の課題解決にも共に取り組み、市の目指すまちづくりの実現に貢献したい」と述べ、松本市長は「双方のこれまでの経験を生かしつつ、新たなチャレンジを共に考え実践していきたい」と話しました。



2/18 浦添の夜の魅力を再発見

浦添大公園から見る夜景～てだこの夜景～が沖縄三大夜景のパノラマ部門に認定されたことを記念して、てだこナイトウォークが初開催されました。

当日集まった約900人の参加者は、懐中電灯を片手に涼しい夜道を歩き、浦添ようどれや浦添大公園の展望台から一望できる夜景を眺めて、「こんなに綺麗に見えるんだね～」「あの辺りがお家かな」と指差し、思い思いに写真を撮るなどして過ごしました。

また、ゴール地点ではキッチンカーの出店や抽選会も行われ、夜景以外にも楽しめるイベントとなりました。参加者からは早速、「来年以降も開催してほしい」という声がありました。



3/1 消火・水難救助の協力者へ感謝状

市内で発生した火災で、自社のフォークリフトで火災現場周辺にある資材を移動し、延焼拡大防止と消火時間短縮に協力をした琉球港運株式会社と、その社員でフォークリフトを運転した知名祥一さん、水難救助で自身の釣り道具を使って、救助者を足場のあるテトラポッドまで約90メートル移動させた後に119番通報をした長田修吾さんに浦添市消防本部から感謝状が贈られました。

長田さんは「深夜釣りをしている時に大きな水しぶき音と、助けてという声が聞こえて現場に近寄ると、海に落ちた人が居て驚いた」と当時は振り返り、「1人で釣りをする人は多いので、ライフジャケットの必要性を広めたい」と話しました。

＼ 話題がいっぱい /

なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、まちの話題をお届けします。ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい＝ひと休み)

市ホームページ「うらそえトピックス」にも市内のできごとを紹介しています。



2/28 20年前のタイムカプセルを開封

平成15年の成人式で、新成人らによってハーモニーセンターに埋められたタイムカプセルが20年の時を経て掘り起こされました。

タイムカプセルの開封は、当時成人式の企画運営委員だった浦添出身の野村春奈さんが呼びかけ、浦西中出身の慶田花英太さんと棚原学さんが立ち合い、掘削と開封が行われました。

残念ながら、手紙や写真などの収納品は長年の腐食で判読できませんでしたが、野村さんは「成人式の20年後にいつか開けなきゃという思いがずっと片隅にあって、今回実現できて嬉しい」と話しました。